

令和5年度 図書館地区別（北日本）研修開催要項

- 1 趣 旨 図書館地区別研修は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の規定に基づき実施するものです。情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的とします。
- 2 主 催 文部科学省 福島県教育委員会
- 3 共 催 福島県公共図書館協会
- 4 主 管 福島県立図書館
- 5 期 日 令和5年10月18日（水）～20日（金）[3日間]
- 6 会 場 福島県立図書館 第一研修室（福島市森合字西養山1）
- 7 対 象 (1) 図書館法第2条に規定する図書館に勤務する司書で、勤務経験が概ね3年以上の者若しくは研修テーマに関連する業務に従事している者。
(2) 上記(1)と同等の職務を行うと福島県教育委員会が認めた者。
- 8 定 員 (1) 会場参加 40名
(2) オンライン参加 40名程度（zoom使用）

* 各講義等の受講定員数。定員になり次第締め切ります。
受講者の決定については、修了証書の取得を目的とする全日程受講者を優先します。
- 9 受 講 料 無 料
- 10 参加申込 福島県立図書館ホームページ「重要なお知らせ」の「令和5年度図書館地区別（北日本）研修」参加申込フォームから必要事項を入力のうえお申込みください。

(1) 申込締切 令和5年9月29日（金）
(2) 問い合わせ先 〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1
福島県立図書館 企画管理部 企画協力班（担当：加藤）
Tel：024-535-3220 Fax：024-535-3226
E-mail：kikaku-library-gr@fcs.ed.jp

(3) 注意事項
参加申し込みフォームに記載された電子メールアドレスあてに各種連絡事項等を送信しますので、アドレスの記載に誤りがないよう十分ご注意ください。

- 11 修了証書 研修日程の概ね4/5以上を受講し、研修成果（研修内容、研修成果を踏まえた業務の改善提案・活用方法について等）について、研修終了後2週間以内にレポート（1,200字程度）を提出し、福島県教育委員会が認めた者に修了証書を授与します。

なお、オンライン参加者についても同様の扱いとしますが、受講者の視聴環境等や主催者側の事情により受講できなかった場合は、修了証書が発行されない場合がありますので、予め御承知のうえお申し込みください。

オンライン参加により全日程を受講の場合は、レポート提出時に参加者の所属長に出席確認証明書を提出していただきます。

12 研修日程

令和5年10月18日（水）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	13:30	14:15	15:30	16:00	16:30
				受付	開講式	文部科学省行政説明	休憩	①基調講演 「図書館におけるSDGsにつながる支援の実情」	館内見学

令和5年10月19日（木）

9:00	10:00	10:30	10:45	11:00	12:00	12:15	13:00	13:15	14:00	14:45	15:00	16:00	16:30
②講義 「令和3年改正著作権法と図書館」			休憩	③講義 「福島における震災アーカイブズの構築と図書館との連携」			休憩	④講義 「子どもの探究が確実に変わるGIGAスクール時代の学校図書館活用の極意」			休憩	⑤講義 「デジタルアーカイブと図書館の未来」	

令和5年10月20日（金）

9:00	10:00	10:30	10:45	11:00	12:00	12:15	13:00	13:15	14:00	14:45	15:00	16:00	16:30	17:00
⑥講義 （事例発表） 「障がい者サービスの実際」			休憩	⑦講義 「地域資料のデジタル化の実際」			休憩	⑧講義 「『100万回死んだねこ』発刊とその後—レファレンスサービスの現実と課題—」			休憩	⑨演習 「これからの図書館～危機管理を中心に～」		閉講式

13 研修内容

① 基調講演 「図書館におけるSDGsにつながる支援の実情」

講師：明治大学文学部専任教授 青柳 英治 氏

SDGsの概要や国内外の図書館におけるSDGsへの取組みの事例を紹介しながら、SDGsにつながる図書館の支援のあり方について考える機会とする。

② 講義 「令和3年改正著作権法と図書館」

講師：日本図書館協会著作権委員会 小池 信彦 氏

過去の著作権法改正を振り返り、2021年の著作権法改正が図書館サービスにどんな影響を与えるか、「図書館等公衆送信サービス」について、実務上気をつけておかなければならない点は何かなどについて解説する。

③ 講義 「福島における震災アーカイブズの構築と図書館との連携」

講師：東日本大震災・原子力災害伝承館 瀬戸 真之 氏

震災アーカイブズの構築および展示の概説および災害伝承施設が持つ図書資料の活用について図書館に期待すること、図書館の図書を災害伝承施設で活用する方法を考える。

④ 講義 「子どもの探究が確実に変わる GIGA スクール時代の学校図書館活用の極意」

講師：長野県高森北小学校・高森町子ども読書支援センター司書 宮澤 優子 氏

2019年から開始した文部科学省の取り組み「GIGA スクール構想」。GIGA スクール時代に学校図書館はどのようにアップデートしていくべきかを具体的な事例を交えて紹介する。

⑤ 講義 「デジタルアーカイブと図書館の未来」

講師：慶応義塾大学文学部准教授／東京大学大学院情報学環客員准教授 福島 幸宏 氏

デジタルアーカイブについての基本的な考え方と、デジタルアーカイブと図書館の未来について学ぶ。

⑥ 講義（事例発表） 「障がい者サービスの実際」

講師：南相馬市立図書館 司書 菊地 伸江 氏

障がいのある方からの利用申し込み、サピエ図書館からのダウンロード、CD-ROM の発送、返却など、障がい者サービスの実際の流れについての事例発表。

講師：福島県点字図書館 事務長 大槻 隆一 氏

点字図書館はどんな役割を担っているのか。地域の公共図書館や公民館図書室に望むこととは？福島県点字図書館の事例をもとに点字図書館と地域の図書館との連携について考える。

⑦ 講義 「地域資料のデジタル化の実際」

講師：函館市教育委員会生涯学習部文化財課 主査・学芸員 奥野 進 氏

地域資料のデジタル化については、その必要性は十分に認識しながらなかなか手を付けられない館も多い。専門業者に委託すべき資料はどんな資料か？職員が撮影する場合にはどんな手順で行うのか？撮影機材や撮影方法などについて具体的に学ぶ。

⑧ 講義 「『100 万回死んだねこ』 発刊とその後ーレファレンスサービスの現実と課題ー」

講師：福井県立図書館主任 宮川 陽子 氏

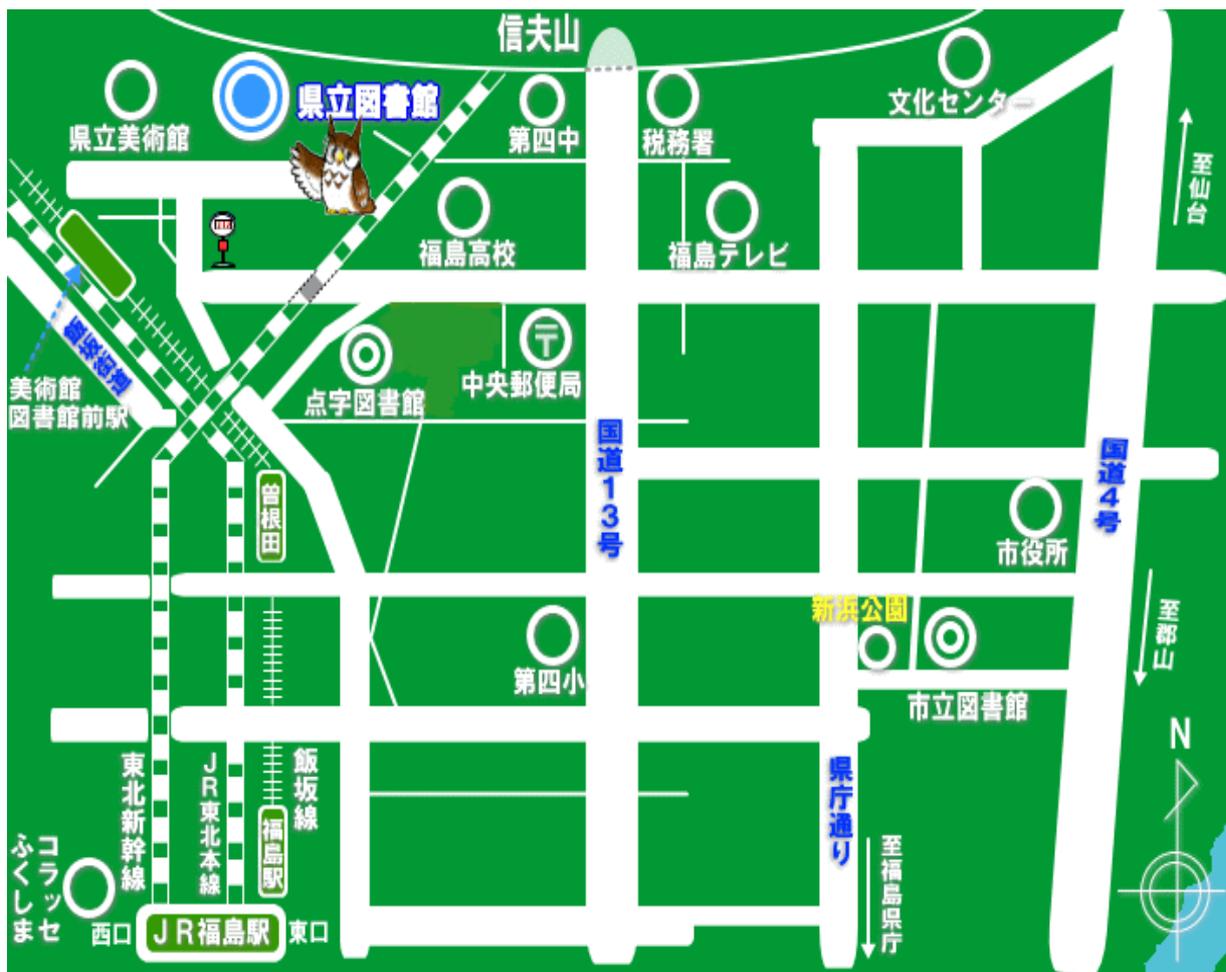
福井県立図書館が手掛け、講談社から出版され大ヒットとなった『100 万回死んだねこー 覚え違いタイトル集』。発刊後の反響にふれながら、レファレンスサービスの課題について考える。

⑨ 演習 「これからの図書館～危機管理を中心に～」

講師：白河市立図書館 館長 中沢 孝之 氏

図書館における危機管理の重要性を再確認しながら、これからの図書館について考える。

14 会場案内



《電車》 JR 福島駅より

福島交通飯坂線「福島駅」→「美術館図書館前駅」下車（徒歩2分）

《バス》 JR 福島駅・東口より

福島交通もりん2コース（9番バス乗り場）→「県立美術館入口」下車（徒歩3分）

《自動車》 福島飯坂 IC より

国道13号線を南下、信夫山トンネルを抜け2つめの信号を右折。約15分。

福島西 IC より

国道115号→国道13号（福島西道路）→県道126号を東進し、福島駅南側のあづま陸橋を越えて国道13号に左折し北上。その先中央郵便局（左手）の信号を左折。約20分。

*駐車場には限りがあります。できるだけ公共の交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

《タクシー》 JR 福島駅東口より約5分

15 その他

- (1) 宿泊・昼食の斡旋は行いませんので各自で手配願います。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大や自然災害等の諸事情により、運営が困難と判断された場合には、研修の開催方法を変更、または研修を延期・中止します。その場合は決定され次第、福島県立図書館ホームページ「重要なお知らせ」に掲示しますので、各自ご確認ください。